



日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 10月26日発行 第 18 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

都営桐ヶ丘団地建替えを高齢者対策と環境・エコのモデルに そねはじめ前都議が都に計画改善を申し入れ

●後期計画は住宅づくりより自動車道路を優先

都内最大の都営桐ヶ丘団地の再生計画は、96年以来の前期計画がほぼ終了し、後期計画に向けて環境アセスメントの手続きに入りました。

そねはじめ前都議は、地元のさがらとしこ区議とともにくり返し団地の方がたと懇談会を開き、その要望を踏まえて東部住宅事務所を訪ね、要望書を提出しました。(写真は要望するそね前都議ら)

特に今回は自動車道路が、現在の桐ヶ丘診療所の横から団地中央の公園の緑を貫く計画に大幅に変更されましたが、住民のみなさんからはやまぶき荘(特養ホーム)と、新たに造る区民センターの間に自動車道路より「いこいの広場を」という要望が多いこと、旧桐北小学校跡地の移転用住宅は、つめこみ過ぎや、狭い1DKを改善して欲しいこと、脱原発のためにも太陽光発電など自然エネルギーをふんだんに取り入れること、早期に団地内に特養ホーム第2号を新設することなどを求めました。

飯塚開発課長は「必ず検討して回答します」と答えました。



●桐ヶ丘中学の太陽光発電設備を見学

桐ヶ丘団地の住棟は屋上に太陽光発電パネルを設置し、廊下やエレベーターの照明などをまかっています。

10月19日にそねはじめ前都議、さがらとしこ区議、桐ヶ丘の住民らで、新しい試みをしている桐ヶ丘中学のエコ設備を見学してきました。(写真)

約1㎡のパネルで昼間平均100ワットを発電しますが、校舎の屋上にはパネルが46枚設置されており、他にも教室のひさしによる採光、体育館や武道場の空気循環、集光ランプなどエコ設備がとりいれられていました。今後の団地づくりの参考にするよう要望していきます。



24日早朝、ボランティア出発前に共産党
北区事務所前での記念撮影



10月のボランティア派遣 石巻で無料配布を行い、無事帰京

60人以上の区民の皆さんから義援金、お米や生活物資の提供を受け、10月24日早朝に7人のメンバーが2台のワゴン車で宮城県の共産党救援センターに向かいました。

25日午前中に石巻市内の仮設住宅の広場で食料や物資の無料提供を行ない、現地の三浦市議団長(11月県議選予定候補)に6万円の義援金を渡して帰路につきました。

帰りは高速道路の事故渋滞に巻き込まれましたが、夜8時過ぎに地区委員会に無事もどりました。おつかれさまでした。

放射線自主測定を生かし共産党区議団が対策を改善させた

「やっぱり心配だから測定を」の声に応じて・・

10月13日、世田谷の民家とともに北区滝野川第三小学校から日常の30倍位以上の $1.01\mu\text{Sv/hr}$ の放射線を発見したと新聞やTVが報じました。

滝三小はプール行事を控え、9月28日に区の測定器でプール周辺を測定する予定でした。「子どもを放射線から守る会」の父母が、「自分達も測定を」と直前に共産党区議団の測定器を借りて測ったところ、プールとは別の、物置の雨どいの下で高い数値が発見され、直後の区の測定でも同じ場所を測らせた結果「1・01」の数値が確認されたのです。

「除染するか否かは専門業者に再測定させてから」という区側に対し、「滝三小は数値が高く、再測定よりすぐ除染を」と区議会で共産党がねばって“直ちに除染”が実現しました。

これを契機に文京、足立、葛飾など次々と、雨どいや側溝の水が地面に浸透する所に高濃度が発見されました。

父母の声に応え、自主測定を区の対策に実らせてきた共産党区議団の役割は重要です。

いま問題の内部被曝の危険性についても「大丈夫」と決めつけず、「やっぱり心配」の声に誠実に応え、科学的で合理的な調査体制を求めてがんばりたいと思います。



今週号の東京民報紙面より
田村智子参院議員とともに浮間スーパ―堤防水害の国責任追及
先週のそねはじめ折り返しレポートでお知らせした浮間一丁目の水害問題での十月十八日の国土交通省要請が大きく記事になりました。
スーパ―堤防の弊害とたたかう各地の住民運動にも注目されています。

そねはじめ交友録<その十二> 石原のとんでもない銀行ごっこを 事実上ストップさせた戦友Yさん、Kさん

私の都議会4期目とともに始まったのが、石原のとんでもないムダ使い＝「新銀行東京」とのたたかいでした。

Yさんはまじめで優秀な金融マンで、「優れた力が評価されず資金繰りに苦しむ中小企業を助きたい」という石原知事のスローガンに共感して就職しましたが、出来上がった銀行の内部は、あわよくば一攫千金や石原都政で出世をねらう有ゾウ無ゾウの野心と欲望のうずで、まともな銀行業務はどこにもありませんでした。

職場でいじめられ、ぼろぼろになったYさんを励まし、彼が勇を鼓して提供してくれた内部会議の記録をもとに2年にわたり都議会で徹底追及したのが私でした。社会正義の内部告発に「情報漏洩」の罪を着せられたYさんを守るため裁判もともに闘い勝利を支えました。私が落選後もYさんを励ます小さな会を、心あるマスコミ記者も招いて開きました。彼は今でも石原の銀行ごっこで受けた傷に苦しみながら生き抜いています。

石原銀行の矛盾をえぐる上で一番の知恵袋になったのが、私の古くからの運動仲間のKさんでした。われわれ共産党がバブル崩壊の負債を抱えた中小企業を食い物にしたときびしく批判してきた、いわゆるハゲタカファンドに属するKさんですが、立場の違いを超えて石原の銀行がいかにか都民の税金をドブに捨てるものかを見事に解明してくれました。Kさんがまた1年前からリーマンショックを予言していたのを思い出します。

おふたりとの“国共合作”にも似た共同戦線によって、石原の1400億円の銀行ごっこをストップさせ、新銀行は追加融資四百億円を抱えたまま事実上の開店休業状態に追い込むことができました。

09年予算委員会で新たな融資制度について新銀行の救済に使われることのないようきびしく追及するそねはじめ都議（当時）

